

大阪市生物多様性戦略 概要版

第1章 大阪市生物多様性戦略の策定にあたって (本体P1~5)

(本体P1~5)

大阪市生物多様性戦略の位置付け (本体P2)

「生物多様性基本法」第13条に基づき、生物多様性国家戦略2012-2020を基本として定める生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画

大阪市生物多様性戦略の計画期間 (本体P2)

2050年のめざすまちの姿を展望しつつ、計画期間は2020年度までの3年間

大阪市生物多様性戦略の目標 (本体P2~3)

2050年までのめざすまちの姿

「生物多様性の恵みを感じるまち」

2020年度までの目標

「愛知目標」や「持続可能な開発目標(SDGs)」など世界の動きを踏まえた生物多様性の保全をめざします。生物多様性の保全のため、市民・環境NGO/NPO・民間事業者・研究機関・教育機関・行政などとのパートナーシップの仕組みを形成します。生物多様性の意味を知っている市民の割合を50%以上にするとともに、自然や生き物を身近に感じる市民を増やします。

大阪市生物多様性戦略の取組みの対象区域 (本体P3)

大阪市全域

大都市でありながら身近なところに貴重な自然があり、自然や生き物との関わりを実感できるまち、都市にいながらも生物多様性の恵みを受けていることを多くの人々が実感し、生物の多様性を守る行動につなげているまち

第2章 生物多様性とは (本体P6~17)

(本体P6~17)

生物多様性とは (本体P7~8)

生き物はそれぞれに個性があり、つながり合って生きています。この生き物たちの豊かな「個性」と「つながり」を生物多様性といいます。生物多様性には、「生態系」、「種」、「遺伝子」という3つの多様性があるとされています。

生態系の多様性

森林、河川、干潟など、いろいろなタイプの自然がある。



十三干潟

種の多様性

動植物や細菌など、いろいろな生きものがある。



チョウトンボ

遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つため、形や模様などの個性がある。



ナミテントウ (写真: 中谷憲一)

生物多様性がもたらす4つの恵み (本体P8~12)

供給サービス

私たちが生きていく上で必要な食べ物、衣類、燃料などを提供する働き



ヤマトシジミ

調整サービス

森林による土砂崩れ防止、洪水防止など、環境を制御し安定させる働き



柴島干潟

文化的サービス

文化面や精神面において私たちの生活を心豊かで楽しいものにする働き



©国立文楽劇場

基盤サービス

光合成による酸素供給や土壌の形成など、生命が生存する基盤を提供する働き

生物多様性の4つの危機 (本体P13~16)

開発など人間活動の拡大による危機



森林伐採

自然に対する働きかけ(人間活動)の縮小による危機



手入れされなくなった森林

人間により持ち込まれたものによる危機



オオクチバス  
ヌートリア

地球環境の変化による危機



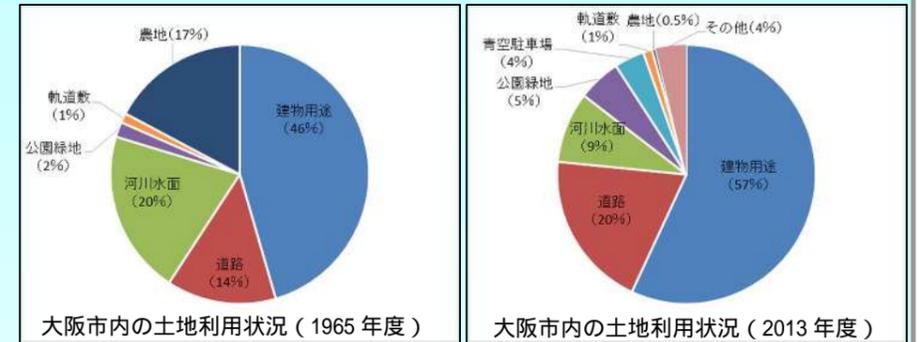
氷河の減少

第3章 大阪市の生物多様性の状況 (本体P18~29)

(本体P18~29)

土地利用の変遷 (本体P20)

約50年間で建物用途と道路が増加し、市街化が進みました。一方で、生き物の生息・生育空間となりうる河川水面や農地は大きく減少しました。



大阪市内の土地利用状況 (1965年度)

大阪市内の土地利用状況 (2013年度)

市内の貴重な自然 (本体P21)

ほぼ全域が市街化された大阪市にも、淀川ワンド群やまちなかの社寺林など大切な自然が残されています。

淀川(城北ワンド)



社寺林(住吉大社) 提供: 住吉大社



野鳥園臨港緑地(もと南港野鳥園)

新たな生息・生育空間 (本体P21)

近年の都市整備により、屋上緑化など新たな生息・生育空間が創り出されています。

新梅田シティ 新・里山



なんばパークス



大阪役所 屋上緑化

周辺エリア・世界とのつながり (本体P24)

大阪は琵琶湖や生駒山、大阪湾といった豊かな自然に囲まれており、淀川や大和川などを通じて、周辺エリア、さらには世界へとつながっています。このようなつながりの中で、大阪市のエリアは重要な役割を担っています。

大阪市内の生き物の現況 (本体P25~29)

これまで大阪市内で確認された生き物は4,502種。そのうち、既に43種が絶滅しています。現在生息・生育している4,459種のうち、556種の在来種は個体数が少なく、保護が必要となっています。(詳細はP93~112参照)



保護上注目すべき生き物



コアジサシ



ミナミメダカ



ヒヌマイトトンボ  
写真: 森岡賢史撮影



ワンドスゲ

## 第4章 私たちの暮らしと生物多様性の関わり

(本体P30～39)

大阪の歴史・文化と生物多様性とのつながり (本体 P30～32)

古代～中世: 海を望む台地に誕生した都 近世: 日本国中の生き物に支えられた大阪文化 近代: 世界中の資源を消費する時代へ

**なんで「なにわ」なん?**  
大阪の自然を今に伝える



上町台地の北端付近の潮の速さから「浪速(なみはや)」と呼ばれ、「難波(なにわ)」と訛った。豊かな海の恵みを生み出す大阪湾を「魚(な)の庭」と呼んだ説など、諸説あります。

**なにわは食の発信地**  
諸国の生き物の賑わいに支えられた商業都市



大阪と言えば「食い倒れ」。江戸時代、大阪は諸国の食材や特産物が集まる「天下の台所」として日本一の商業都市に発展しました。

**なにわにもあるんやで、伝統野菜**  
発展するまちを支えた野菜たち



田辺大根、金時人参など、様々な「伝統野菜」が生産され、発展する大阪のまちの消費を支えてきました。

**文案もそうなん!?**  
クジラのヒゲが支える伝統文化



大阪が誇る伝統芸能「文案」セミクジラのヒゲを使った仕掛けが、文案人形の芸術的な動きを可能にしています。

**そして今...**  
大都市に住む私たちの日々の暮らしは、自然や生き物に支えられています。



大阪市内の生物多様性関連施設等 (本体 P33～36)  
研究機関 展示施設

**自然史博物館**



体験学習施設  
**自然体験観察園**  
(花博記念公園鶴見緑地内)



**天王寺動物園**



自然と触れ合える施設  
**住吉大社**



提供: 住吉大社

**海遊館**



**新梅田シティ 新・里山**



民間事業者の取組状況 (本体 P37～38)

大阪市内に本社を置く企業においても、国内外の生物多様性の保全に積極的に貢献している事例が見られます。

取組事例

- 屋上緑化やビオトープ、森林などの整備
- 木材調達における「森林破壊ゼロ」の宣言・実践
- 熱帯雨林の破壊を引き起こさない持続可能な原料(パーム油)の調達、熱帯雨林における森林再生活動の推進
- 小学生を対象とした環境学習や自然観察教室などの開催

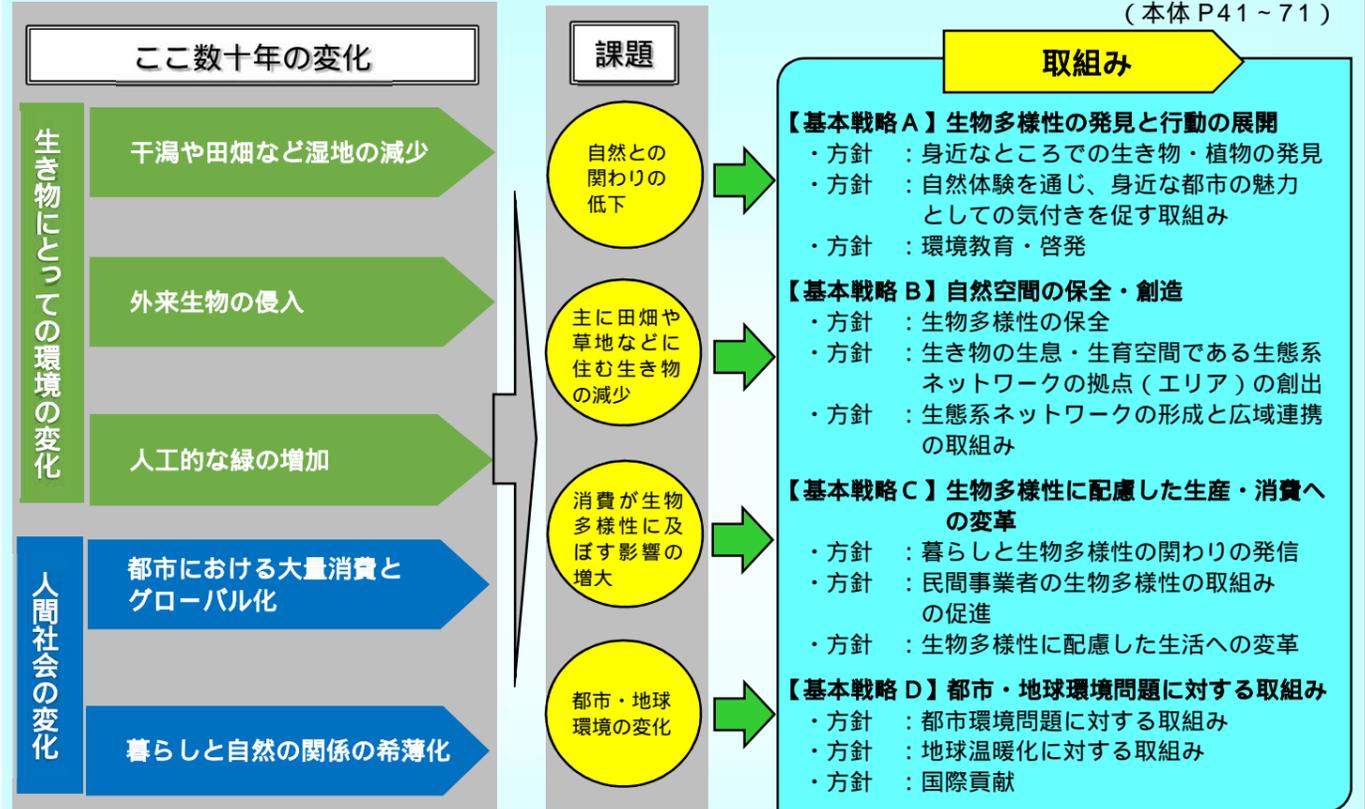
環境 NGO/NPO などの取組状況 (本体 P38～39)

- 自然や生き物をテーマとして活動する環境 NGO/NPO 団体などが数多くあり、自然観察会や環境に関する講座の実施など、様々な取組が進められています。
- 市民、環境 NGO/NPO 団体、民間事業者の間で緩やかなつながりが形成されており、連携した取組が進められています。

## 第5章 目標達成に向けた取組み

(本体P40～71)

(本体 P40～41)



大阪市の強み・資源を活かす

- |                  |   |
|------------------|---|
| 1 市内の貴重な資源       | 5 民間事業者・環境 NGO/NPO など多様な主体間のつながり、取組みの展開 |
| 2 新たな生息・生育空間     | 6 市民やインバウンドに支えられた大きな消費市場                |
| 3 周辺エリア・世界とのつながり | 7 世界に貢献できるネットワーク、技術・知見の蓄積               |
| 4 関連施設が集積        |   |

## 第6章 大阪市生物多様性戦略の推進に向けて

(本体P72～74)

花博記念公園鶴見緑地にある環境活動推進施設(愛称「なにわ E C O スクエア」)を拠点に、生物多様性に関する様々な主体が集い、情報を共有し、つながりをさらに強化・拡大していくため、新たな連携・協働の仕組みを創設し、既存のネットワークの仕組みも活用しながら、様々な主体と連携・協働します。

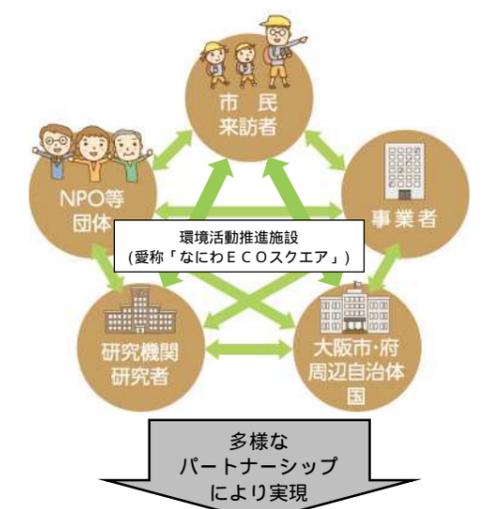
生物多様性を身近に感じてもらえるよう、各主体が行う取組みの情報発信を積極的に行います。

教育の場を積極的に活用し、将来を担う子どもたちへの普及啓発の強化に取り組みます。

戦略の目標達成状況や取組みの状況について、毎年点検を行い、点検結果は毎年度、大阪市環境審議会に報告を行い、ホームページで公表します。

- 生物多様性のモニタリング・評価及び進捗管理の手法や、各主体との連携・協働の仕組みのバージョンアップなどについて検討を行い、次期戦略に反映していきます。

新たな連携・協働の仕組み 概念図



多様なパートナーシップにより実現  
大阪で暮らす人・働く人・学ぶ人、大阪を訪れる人が生物多様性の恵みを感じるまちを実現

# 「大阪市生物多様性戦略」策定・推進の意義

## 1 国際的な動向

～深刻化する地球環境の悪化を背景としたパラダイムシフト～

- 1972年6月 国連人間環境会議(UNCHE):ストックホルム (6/5～16開催)**  
 ・「かけがえのない地球(ONLY ONE EARTH)」というスローガン、国連として初めて環境問題を議論する国際会議  
 ・人間環境宣言(ストックホルム宣言)の採択

「人は環境の創造物であると同時に、環境の形成者」  
 「人間環境」の擁護・向上は、「平和」、「経済社会発展」と並ぶ「人類にとって至上の目標」

- 1992年6月 国連環境開発会議(地球サミット):リオデジャネイロ**  
 ・気候変動に関する国際連合枠組条約(気候変動枠組条約)の採択

気候システムに危険な影響がもたらされない水準で、大気中の温室効果ガス濃度を安定化させるため、全ての締約国は、共通だが差異のある責任のもと、それぞれの約束(コミットメント)を実施  
 先進国は、温室効果ガスの排出量を2000年までに1990年の水準に戻すことを努力目標とする

・生物の多様性に関する条約(生物多様性条約)の採択

生物の生息環境の悪化及び生態系の破壊に対する懸念が深刻化し、野生生物種の絶滅が過去にない速度で進行  
 多様な生物を生息環境とともに保全し、生物資源を持続可能であるように利用して、遺伝資源の利用から生ずる利益を公正かつ衡平に配分していくことを目的とする

- 2010年1月 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10):名古屋市**  
 ・自然と共生する世界の実現をめざし、生物多様性保全に関する世界目標「愛知目標」の採択

- 2015年9月 国連持続可能な開発サミット:ニューヨーク**  
 ・持続可能な開発のための2030アジェンダの採択

「持続可能な開発目標(SDGs)」を中核とする国際社会共通の目標であり、「人間、地球及び繁栄のための行動計画」

- 12月 気候変動枠組条約第21回締約国会議:パリ**  
 ・パリ協定の採択

21世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロとすることを目標とする  
 生物多様性保全を含む「適応策」を地球温暖化対策の重要な柱と位置付け

## 2 生物多様性の意義

～生物多様性は人類の生存基盤～

- ◆ 地球上の生物は約3000万種  
 それぞれの生物種は、40億年の進化の歴史の中で生まれてきた「奇跡の傑作」
- ◆ 多様な生物と大気・水・土壌等が相互に関わりあって生態系を形成。人類もそのバランスの中で生存  
 生物種が失われると、生態系を介して影響が連鎖していくため影響は計り知れず、かつ元通りにできない
- ◆ 自然や生き物の減少は人類の生存基盤を脅かす危機であり、国際条約や国家戦略の下、大阪市も  
 生物多様性の保全に取り組んでいくことが必要

## 3 SDGsの意義・ポイント

～2030年に向けて世界が合意した目標～

- ◆ 人間の活動による影響が地球の限界を超えるリスクが顕在化する中で、経済・社会・環境の三側面の統合的取組を通じた持続可能な開発(課題解決)をめざすもの

- ◆ 「誰一人取り残さない」という考え方に基づいて17のゴール(目標)を設定

- ◆ 国は2016年5月に、首相をトップとする「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置し、SDGsの取組を積極的に推進



## 4 国内の動向

～国際条約・国家戦略を踏まえた生物多様性地域戦略の策定の動き～

- 1995年10月 生物多様性国家戦略の策定**  
**2008年 5月 生物多様性基本法の制定**  
 ・生物多様性地域戦略の策定を地方公共団体の努力義務として規定  
 ・20政令指定都市のうち、大阪市、千葉市、広島市を除く17市が地域戦略を策定済

## 5 戦略の推進により大阪市がめざすもの

～持続可能な社会・経済システムの構築～

- ◆ 生物多様性の保全は、持続可能な社会・経済システムを構築するというSDGsを達成するための主要な取組みの一つ

【戦略の主な施策と関連するSDGsのゴール】

・緑化の推進



・環境教育、ボランティアの育成・連携



・水質・水辺環境の改善



・地球温暖化対策、ヒートアイランド対策



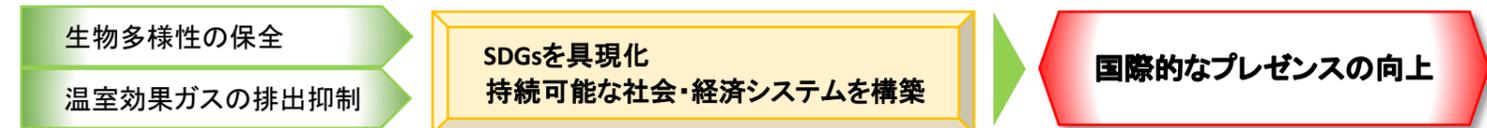
・生物多様性に配慮した調達、食品ロスの削減



・国際貢献

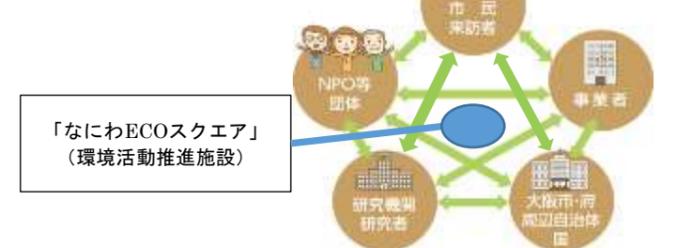


- ◆ 国際博覧会やオリンピックでは、生物多様性に配慮した調達や温室効果ガスの排出抑制など、持続可能な運営が責務  
 生物多様性保全等に取り組む、持続可能な社会・経済システムを構築していくことが、大阪市の国際的なプレゼンスの向上に不可欠



- ◆ 花博記念公園鶴見緑地内にあり、国際花と緑の博覧会の理念「自然と人間との共生」の継承・発展に取り組んでいる「なにわECOスクエア」を、生物多様性保全に向けた拠点と位置付け

《新たな連携・協働 概念図》



## 6 環境基本計画の改定

～SDGsの考え方を活用した環境政策の構築～

- ・国は、SDGsの考え方を受け、第5次環境基本計画を策定しているところ
- ・他都市では、横浜市や北九州市などがSDGsを踏まえ、環境基本計画の見直しを実施

SDGsを活用する環境政策の構築が時代の潮流

大阪市  
 SDGsを具現化する環境基本計画への改定に着手